

## 北区は山だらけ!?

### ■ 砂丘列が最も発達した北区

北区では、山地や丘陵がないのに笹山、尾山、築上山、城山、かぶとやま、上・中・下黒山、名山など「山」のつく地名がたくさんあります。

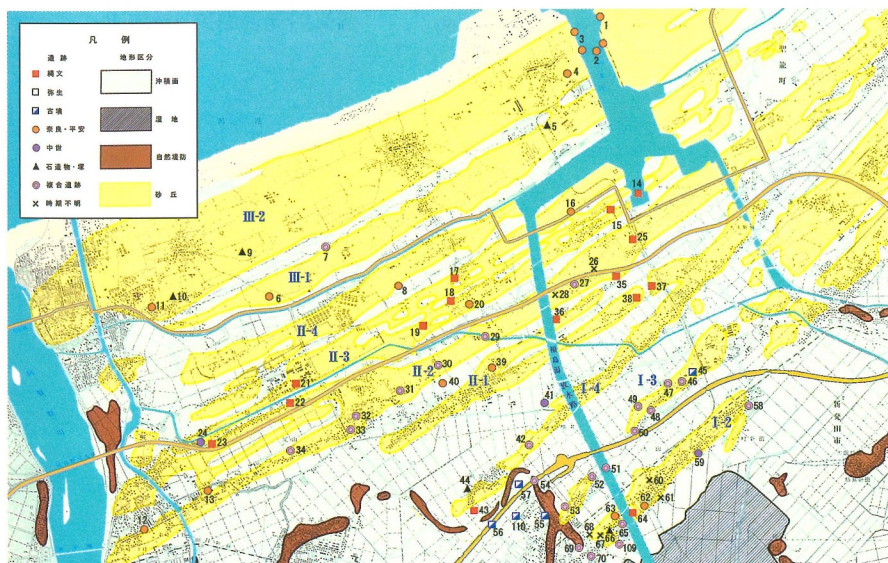
区の中央部から海岸までの、昔から集落のある場所は小高い場所となっているはず。そして、屋敷の土や周りの耕作土が砂っぽいと思います。砂丘の上なのです(地図の黄色の部分)。

越後平野には、北東部の岩船丘陵から南西部の角田山麓まで、海岸線と平行して砂丘列が連なっています。信濃川や阿賀野川が吐き出す土砂は、沿岸流と冬の季節風の作用で砂丘を形成しました。氷河期が終わった完新世(約 1

万年以前降)に形成されたことから「新砂丘」と呼ばれています。

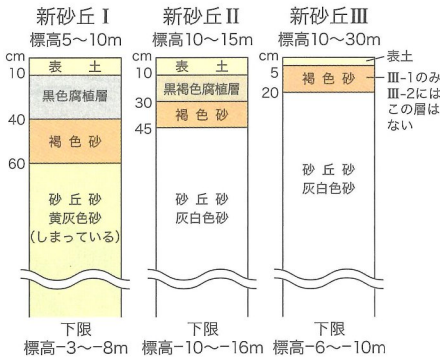
砂丘列は分布、形状、表面の腐植層(植物が腐って黒っぽくなった砂)などの違いにより、内陸から新砂丘Ⅰ・新砂丘Ⅱ・新砂丘Ⅲと3群に分けられています。さらに、ⅠとⅡは4列ずつ、Ⅲは2列に、合計10列に細分されています。また、出土する土器や石器から、砂丘列は、内陸から海岸部へ向けて形成されていったことがわかりました。Ⅰ-1列が最も古く、海岸部のⅢ-2列が一番新しい砂丘列です。

北区ではⅠ-1列は発見されていません。法花鳥屋〜名山〜下・中・上黒山ラインのⅠ-2列が1番古い砂丘列で、



砂丘と遺跡分布図

4 『北区お宝ものがたり』は、博物館などで1冊800円で頒布しています。



模式柱状図

縄文時代前期末(5,000年前)の土器が出土しています。北区は10列中9列の砂丘を明確に区分することができ、市内で最も砂丘列が発達した地域です。

模式柱状図にある各砂丘群の下限に注目してください。砂丘は、地表部に出ている高さと同じくらい、地下に沈んでいるのです。形成当時はもっと高く、標高14mの城山(Ⅰ-3列)のような砂丘列が連なっていたと考えられます。砂丘の壁は河川を遮り、内陸側に排水不良の広大な低湿地帯を形成しました。その後、江戸時代まで、荒川から信濃川までの間に、河口を持つ河川はありま

せんでした。人々は洪水や湛水に悩まされながら用排水機能を整備し、今日の美しい水田を作り上げてきました。

## ■ サンベ

砂丘列と砂丘列の間の低湿地帯は「サンベ」と昔から県内各地で呼ばれてきました。平野部の低地もサンベと呼ばれることから、砂丘間のサンベを「浜サンベ」という人もいます。現在は、開拓され美しい水田となっています。

北区では、<sup>たゆうはましんまち</sup>太夫浜新町(Ⅲ-2列)北側の林と現在の海岸砂防林(海辺の森)の間、そして、南浜病院のあるⅢ-1列と新潟医療福祉大学のあるⅢ-2列の間にあります。

サンベの中央に立つと、両側に砂丘の松林がせまります。砂丘を形成する飛砂がおさまり、やがて植物が繁茂し、林が形成されます。人々が住み始める頃の様子を思い浮かべることができます。現在は、埋め立てられ、住宅地や工場地となっているところが多いのですが、北区の生い立ちを教えてくれる貴重な景観の1つです。



サンベ(左の林:砂丘Ⅲ-2列(新潟医療福祉大学) 右の林:砂丘Ⅲ-1列(南浜病院))

『北区お宝ものがたり』は、博物館などで1冊800円で頒布しています。